

超顕微解析研究センター利用者各位

日頃から本センターの活動にご支援を賜り、御礼を申し上げます。

本センターの「3次元観察用電子分光型電子顕微鏡 JEM-3200FSK」は設置から19年となりますが、今年7月に重要な部材である加速管が損傷し、調査の結果、大規模かつ高額な修理が必用なことが判明しました。またこの問題と前後して、同電子顕微鏡のCCDカメラが故障しましたが、旧式機器のため交換部品の調達が難しくなっています。さらに本体のレンズ系に何らかの異常があり、不定期に電子ビームのちらつきが生じていました。これらの複合的な問題について慎重に対応を検討して参りましたが、同電子顕微鏡（現在も故障のため利用不可の状態）は、本年の11月を目処に運用を停止することと致しました。

なお、これまで同電子顕微鏡が担っていた明視野・暗視野像の観察や、電子回折などの基本機能は、現有する他の装置のほか、2023年3月を目処に本センターへ移設を計画している汎用電顕（日本電子製の200kV電顕（JEM-2100F）：学内他部局からの移管後、2023年4月以降に共用開始の予定）をご利用頂きたいと思っております。また加速電圧300kVの条件が必要な場合は、本年度中に共同利用を開始する新300kV電顕（結像系と照射系の収差補正あり）をご利用下さい。新300kV電顕については、後日、利用者の皆様への紹介機会を差し上げたいと思っております。

上記の通り、装置の状況と、それに関わる今後の対応をご連絡申し上げます。利用者の皆様におかれましては、何卒ご理解のほど、お願い申し上げます。

令和4年10月12日

超顕微解析研究センター
センター長 村上恭和
主任 安田和弘

補足：

運用を停止する3次元観察用電子分光型電子顕微鏡の本体は、電子顕微鏡機器に関わる調査研究の目的で、本年11月以降、学内の他部局へ移管される予定です。移管に伴う移設作業につきましては、当センターホームページで随時お知らせいたしますのでご確認いただけますと幸いです。